

26 町組改正と小学校

ちようぐみかいせいとしょうがっこう

知る

町組ちようぐみって何？

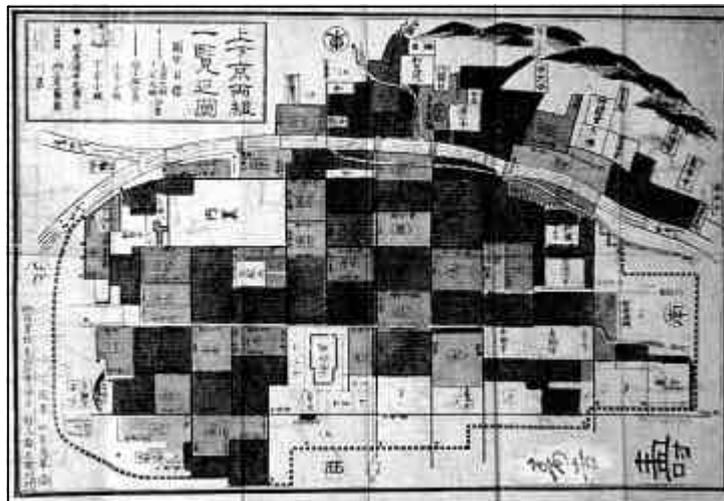
京都において町組とは、道路をはさんで形成された町が集まって地域的に連合した自治組織です。十六世紀初め頃に形成された原型が、拡大発展を経ながら明治元（一八六八）年まで続きました。

明治になり、従来の町組は解体・再編成させられ、新時代の行政組織に衣替えしました。これが町組改正で、この時できた町組が現在の元学区もとがっくの原型となりました。

町組改正って何？

明治元年十一月に京都府は次のように江戸時代の町組を大きく変えました。

- (1) 京都の上京かみきよう・下京しもきようを上大組かみおおぐみ・下大組しもおおぐみとする。それぞれに大年寄おおとしよりを置いて組内の支配にあたらせる。大年寄は府知事おうちょうが任命する。
- (2) 親町おやちよう（古町こちよう）・枝町えだちよう・新町しんちようの別を廃し、二十か町を単位に上京何番組、下京何番組と呼称。組ごとに中年寄・添年寄各一名を設置。中年寄・添年寄は、任期一年で組内で公選され、交代で府庁にも勤務する。



第二次町組改正(明治2年)後の町組図。

この再編成で、二条通を境にして上大組（上京）を四十五の組、下大組（下京）を四十一の組に分けました。この再編成を第一次町組改正と呼びます。

ところが第一次町組改正では、江戸時代の町組が基本となり、町数の平均化などに不徹底がありました。そこで、明治二（一八六九）年、京都府は再び改正に乗り出しました。

三条通を境線に、平均町数を一組あたり二十六から二十七か町とし、上京が一〜三十三番組、下京が一〜三十二番組の計六十五の町組が成立。京都の新しい行政基盤となりました。これが第二次町組改正で、このとき確定した町組が現在の元学区もとがっくにつながっています。

小学校の構想と設立

明治初年、京都府が町組改正とともに、着手した大事業として小学校の建設があります。

そもそも京都では、江戸時代から漢学・国学・洋学や町人の道徳哲学である心学などの私塾や寺子屋の伝統が築かれていました。このような風土のなか、慶応三（一八六七）年、寺子屋を営む篤志軒八代目西谷淇水にししたにきすいが官立の教学所設立の建白を出しました。のちに二代目府知事となった榎村正直まきむらまさはらが強力に小学校建設を推進し、読書・習字・算術の稽古場として、一組に一か所の小学校建設を計画しました。

同時に京都府は、町組ごとに小学校と町組会所を併設する町組会所兼小学校の構想を立てました。

第二次町組改正が行われ、明治二年一月末に新しい町組が成立すると小学校建設は急速に進められました。日本で最初に発足したこの町組会所兼小学校を、一般に番組ばんぐみ小学校と呼びます。

明治二（一八六九）年五月二十一日の上京第二十七番組（柳池りゅうち）小学校と、下京第十四番組（修徳しゅうとく）小学校で開校式が行われました。その後、次々と開校し、明治二年内にすべての開校が完了しました。十二月二十一日、最後に開校した小学校は、上京第二十八番組と二十九番組の（京極きょうごく）小学校です。ここは二組合同で一つの小学校を建設したので、町組全六十五に対して小学校数は六十四校となりました。

小学校の様子は？

多くの小学校は、地元有志の寄附や寺社の敷地の一部でま

かなわれ、運動場もなく、民家とあまり変わらない大きさでした。教育は府独自の規則により、筆道、算術、読書の三教科を中心として行われました。



明治後期の梅屋小学校

小学校は単に教育機関であるだけでなく、町会所であり、府の出先機関でもありました。警察・交番や望火楼を設置。塵芥処理や予防接種など保健所の仕事も担っていました。このように小学校は総合庁舎としての機能を果たしていましたが、その経費の一切は町組が負担していたのです。

学制と京都の学区

明治五（一八七二）年八月、政府はフランスやアメリカの制度にならった学制を發布しました。これにより大・中・小学校の区分が示され、行政区画とは別に人口六百人を基準とする小学校区が定められました。

しかし、京都では大・中学校区は学制に従って編成しましたが、小学校については、これまでの行政単位としての町組即小学校区という方針を継続し、第何区小学校としました。さらに、区は明治十二年には組、同二十五年には学区と改称。市制・町村制施行後も学区を維持しました。その間、小学校には漢字による名称が付けられ、それにもない学区も「乾隆学区けんりゅうがく」のような漢字の名称になりました。

昭和十六（一九四一）年に国民学校令により廃止されるまで、学区は単なる通学区域ではなく、独自の財源を持ち、教育経費を負担する自治団体でした。

戦後、小学校が一部で新制中学に転用され、小学校の通学区とそれまでの学区が完全に重ならないことになりましたが、学区は地域の社会福祉をはじめとする地域行政の核となり、京都独自の地域住民の自治単位として機能しています。これは「元学区」と呼ばれています。

昭和四十五（一九七〇）年以降、新設校が大幅に増加しましたが、ドーナツ化現象の進行と少子化の影響で、児童数が急激に減少するのに伴い、市内中心部では小学校の統合と廃止が行われました。

歩く／見る

京都市学校歴史博物館 下京区御幸町通仏光寺下る
開智小学校の校舎を利用し開設。明治二（一八六九）年に創設された六十四の番組小学校を中心に、京都の教育の歴史を学校文化財（美術工芸品）と歴史資料によって紹介しています。



有済小学校望火楼
東山区大和大路三条下る東入
有済小学校の屋上には望火楼（火の見やぐら）が残されています。かつて

はこのような望火楼が各小学校に設置され、学区内の消防の中心になっていました。

「日本最初小学校柳池校」「柳池幼稚園碑」の石標 中京区御池通柳馬場東入北側

明治二（一八六九）年五月二十一日に上京第二十七番組小学校が富小路通御池角で開校式が挙行されました。明治六年現在地に新築移転。これが柳池小学校です。昭和二十二（一九四七）年、新学制施行により、柳池中学校となり、平成十五（二〇〇三）年四月、京都市城異中学校と統合し京都御池中学校となりました。

また明治八（一八七五）年、校舎の一角に幼稚園遊嬉場が設けられました。これは約一年半程で閉鎖されましたが、昭和四（一九二九）年五月改めて幼稚園が開園。平成八（一九九六）年三月に閉園となりました。

これらを記念する石標が立てられています。

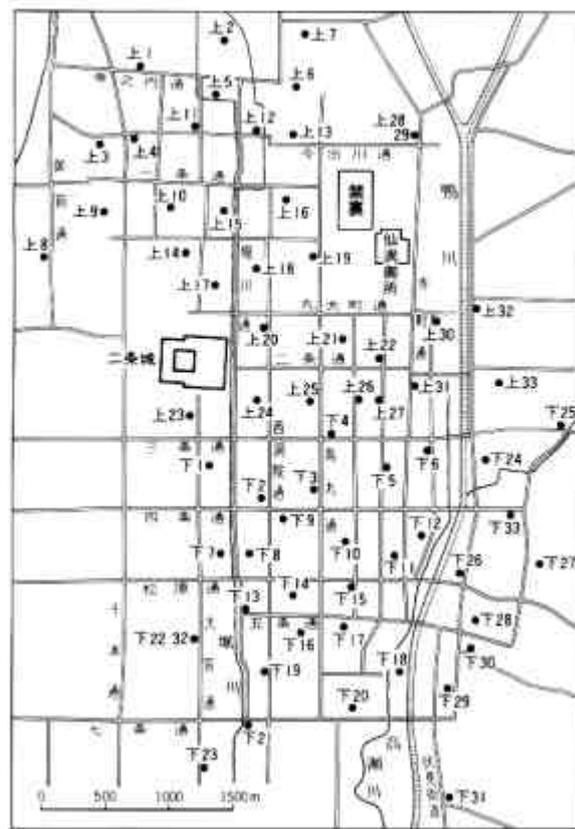
明治二年の番組と現在の元学区対照表

第一番組	【上京】	乾隆	【下京】	乾
第二番組		成逸		本能
第三番組		翔鸞		明倫
第四番組		嘉楽		日彰
第五番組		西陣		生祥
第六番組		室町		立誠

- 第七番組
- 第八番組
- 第九番組
- 第十番組
- 第十一番組
- 第十二番組
- 第十三番組
- 第十四番組
- 第十五番組
- 第十六番組
- 第十七番組
- 第十八番組
- 第十九番組
- 第二十番組
- 第二十一番組
- 第二十二番組
- 第二十三番組
- 第二十四番組
- 第二十五番組
- 第二十六番組
- 第二十七番組
- 第二十八番組
- 第二十九番組
- 第三十番組
- 第三十一番組
- 第三十二番組

錦林 銅駝 春日 京極 京極 柳池 初音 龍池 城巽 教業 富田 竹間 梅屋 滋野 滋野 待賢 中立 聚楽 出水 室町 小川 桃川 正親 仁親 仁親 室町

淳風 一橋 修道 貞教 六原 安井 新道 栗田 有田 梅逕 淳風 安寧 皆山 植柳 菊浜 稚松 尚徳 有隣 修徳 醒泉 永松 開智 豊園 成徳 格致 郁文



第三十三番組

新洞

弥栄

明治二十五年に学区の統合が行われた。元学区で同じ名前が複数あらわれるのはそのためである。また下京三十三番組（弥栄）は明治二年の第二次町組改正直後、下京二十四番組から分離し下京三十三番組となった。

明治二年に設立された小学校所在地。上京・下京を区別し、番組を数字で表示した。ほとんどの小学校がのちに移転している。